

## ▼ゾリンザカプセル [内]

【重要度】 【一般製剤名】 ボリノスタット Vorinostat 【分類】 抗悪性腫瘍剤 [ヒストンデアセチラーゼ阻害剤]

【単位】 ▼100mg/cap

【常用量】 1日1回400mg [適宜減量]

【用法】 1日1回食後に経口投与

【透析患者への投与方法】 PKからは減量の必要なし (5)

【保存期 CKD 患者への投与方法】 PKからは減量の必要なし (5)

【特徴】 皮膚T細胞性リンパ腫に用いられるヒストン脱アセチル化阻害剤。投与が推奨されるのは以下の3種、菌状息肉床またはセザリー症候群、Stage IIB以上、全身療法の治療歴あり。

【主な副作用・毒性】 下痢、疲労、悪心、食欲不振、脱水、高血糖、血小板減少、貧血、味覚異常、静脈血栓症、腎不全など多数

【安全性に関する情報】 低K血症などの電解質異常は遠位尿細管でのヒストンデアセチラーゼ阻害によるものかもしれない (Hyndman KA, et al: JCI Insight 2020 PMID: 32673289)

【吸収】 食事により tmax は遅延するが t1/2 には影響しない (1)

【F】 43% (1)

【tmax】 3hr (1)

【代謝】 主な代謝物はO-グルクロン酸抱合体およびヒドキシム酸基の加水分解後のβ-酸化で生成する4-アニリノ-4-オキシプタン酸で未変化体の血中濃度よりも高値になる (1) 代謝物に活性なし (1) グルクロン酸抱合にはUGT2B17が主に関与 (Kang SP, et al: Pharmacogenet Genomics 20: 638-41,2010) .

【排泄】 尿中未変化体排泄率1% [24hr まで] (1) 1%未満 (Rubin EH, et al: Clin Cancer Res 12:7039-45, 2006) 尿中回収率: O-グルクロン酸抱合体23%, 4-アニリノ-4-オキシプタン酸57% [24hr まで] (1) 【CL】 6L/min と肝血流量を上回っている (1)

【t1/2】 1.6hr (1) 1.5hr (Rubin EH, et al: Clin Cancer Res 12: 7039-45, 2006)

【蛋白結合率】 68~76% (1)

【Vd】 0.6L/kg [イヌ, iv], 1.6L/kg [ラット, iv] (1)

【MW】 264.32

【透析性】 資料なし (1)

【OW 係数】 0.96 [1-オクタノール水系] (1)

【相互作用】 ワルファリンの作用増強, バルプロ酸の副作用を増強 (1)

【更新日】 20210921

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、

直接または間接的に生じた一切の問題について、当院でいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。